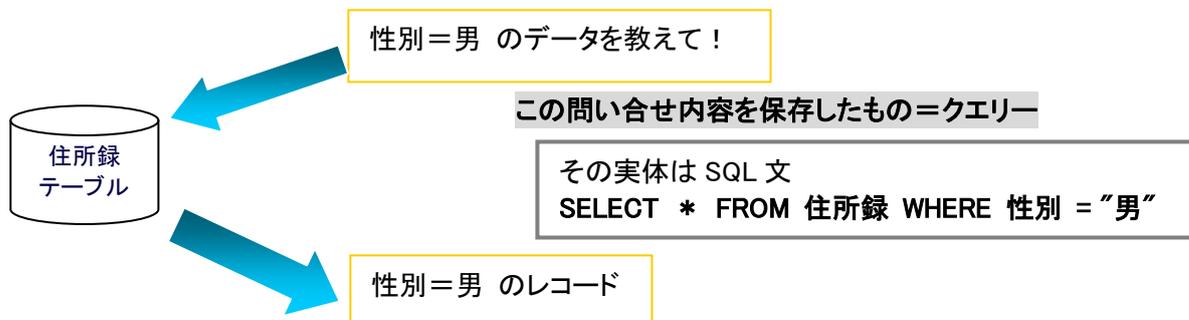


🔑 クエリー

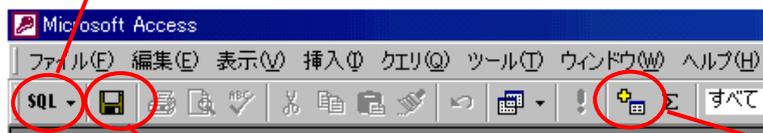
クエリーとは？

「クエリー」とは、テーブルに対する問い合わせ (Query) 操作のことで、その実体は SQL 文 (Structured Query Language) です。並べ替えの条件や抽出条件、表示するフィールドなどの設定を保存しておくことによって、簡単に同一条件のデータを再出力することができます。……テーブルで毎回毎回、並べ替えや選択フィルタの操作を行う必要がありません。



クエリー デザインビュー

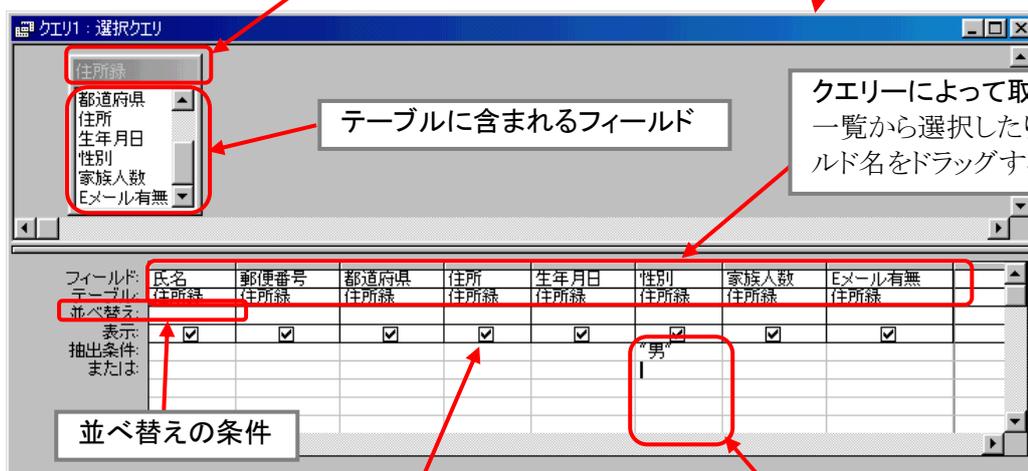
このボタンでデザイン画面やデータシート画面などを切り替えます (右の ▼ ボタンで選択肢を表示)



このボタンでクエリーのデザインを保存します

このボタンでテーブルを追加できます

データを取り出すテーブル名



抽出条件にはするが画面には表示させないような場合、「表示」のチェックを外しておきます

抽出条件
縦に複数の条件を設定することによって、「都道府県が「群馬」または「埼玉」といった抽出ができます

さまざまな選択クエリ

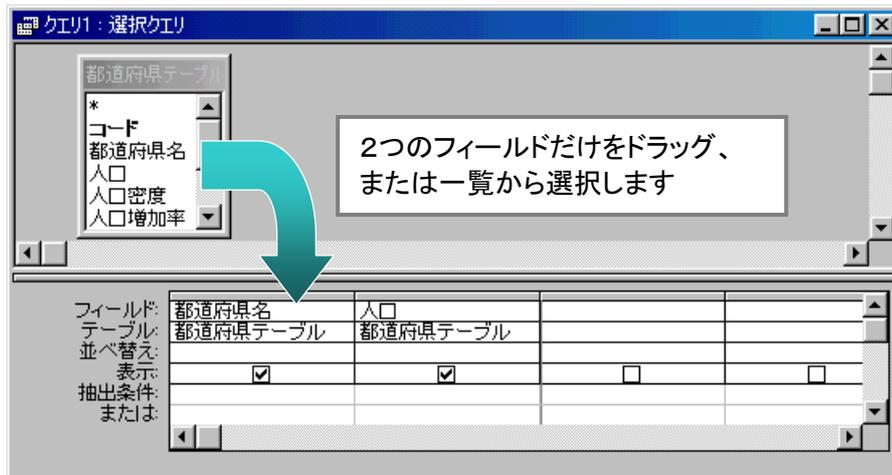
テーブルからデータを取り出すクエリのことを「**選択クエリ**」といいます。選択クエリでは、並べ替えや抽出条件を設定したり、必要なフィールドだけを取り出したりすることができます。また、テーブルと同じように、データ編集することもできます。

※クエリの内容によっては、データ編集できないものもあります。

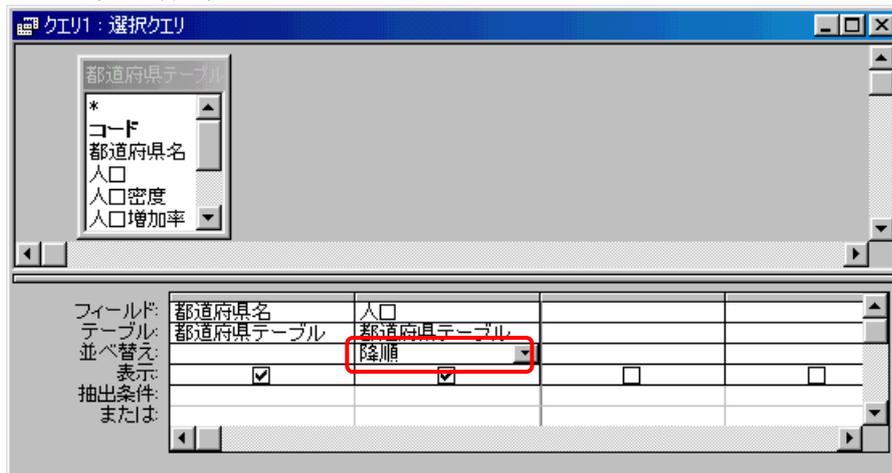
※クエリの内容を変更したとき、実際に変更されるのはその元となっているテーブルのレコードです。

以下に、「都道府県テーブル」を元にした、選択クエリのいくつかの作成例を示します。

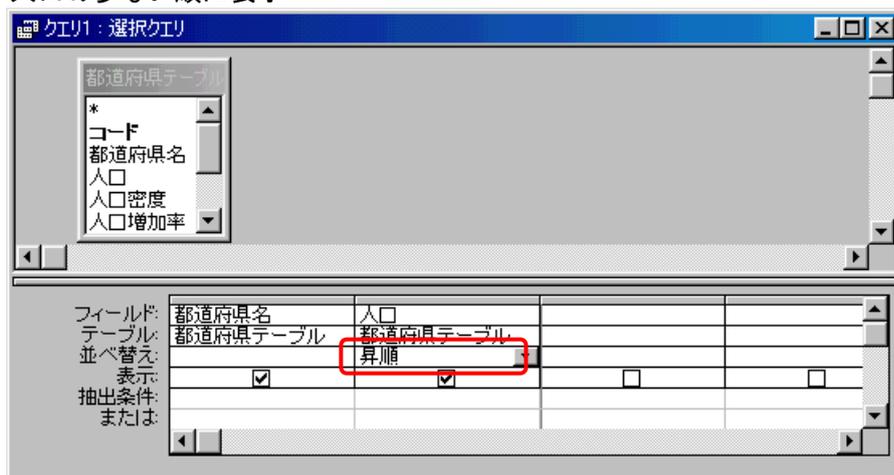
- 「都道府県テーブル」より、都道府県名と人口のみを表示



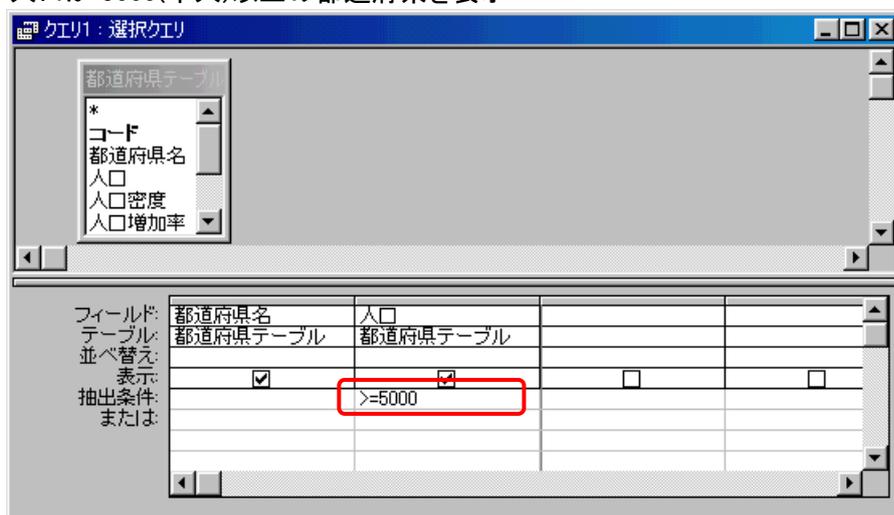
- 人口の多い順に表示



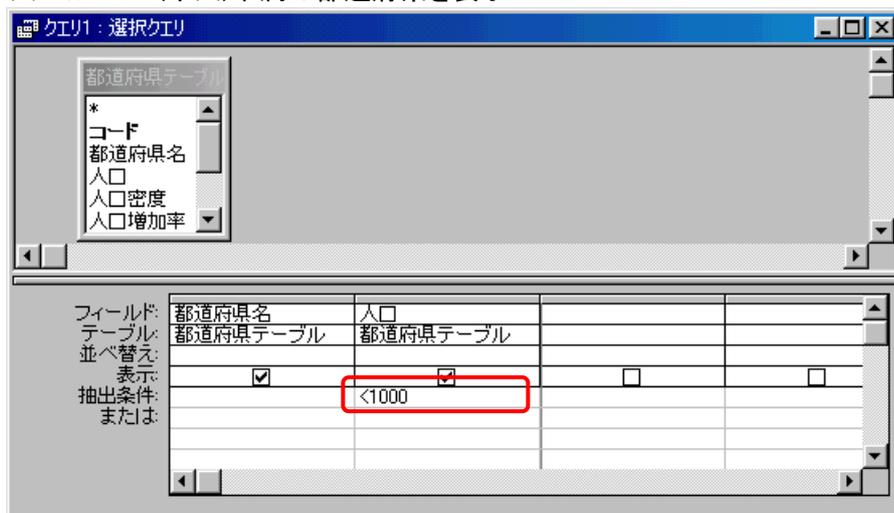
- 人口の少ない順に表示



- 人口が 5000(千人)以上の都道府県を表示



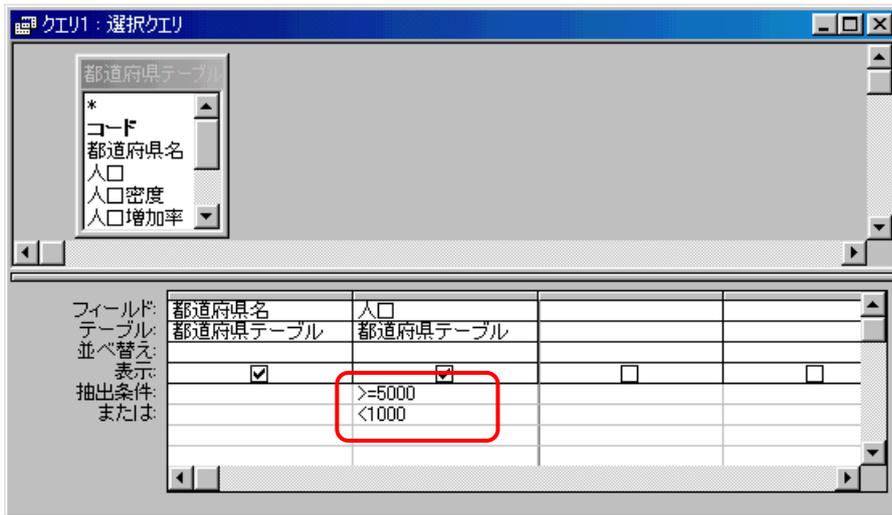
- 人口が 1000(千人)未満の都道府県を表示



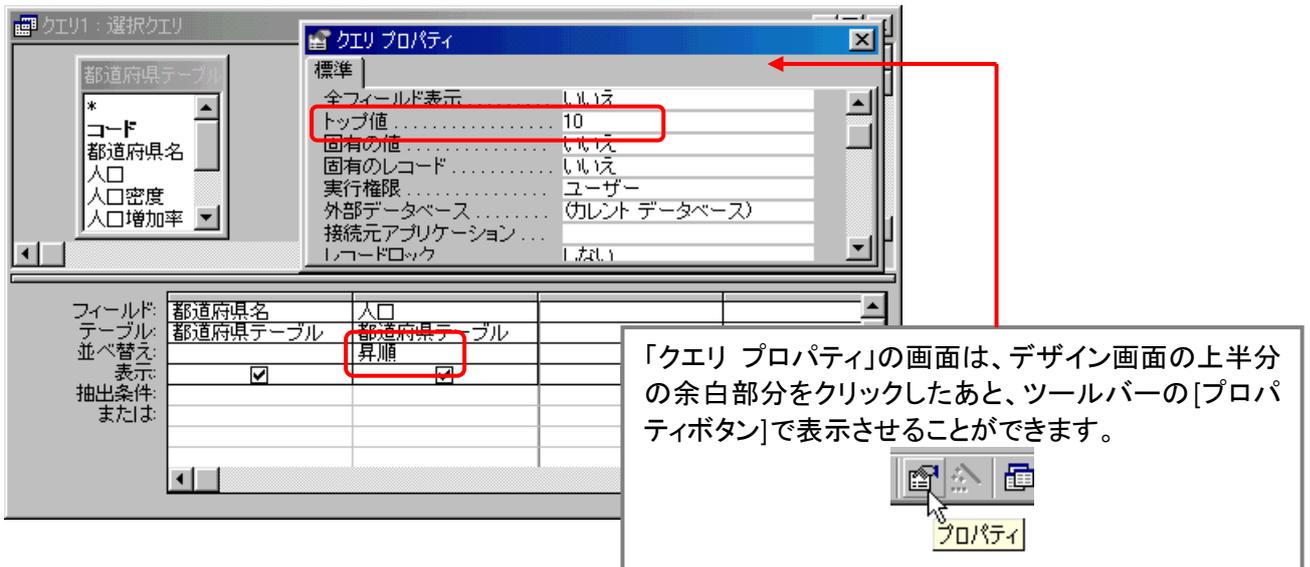
- 人口が 1000 以上、2000 未満の都道府県を表示



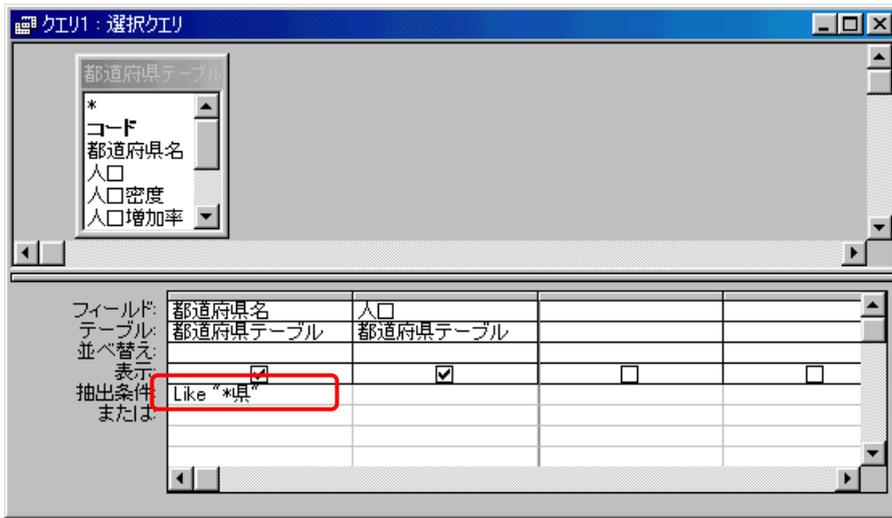
- 人口が 5000 以上または 1000 未満の都道府県を表示



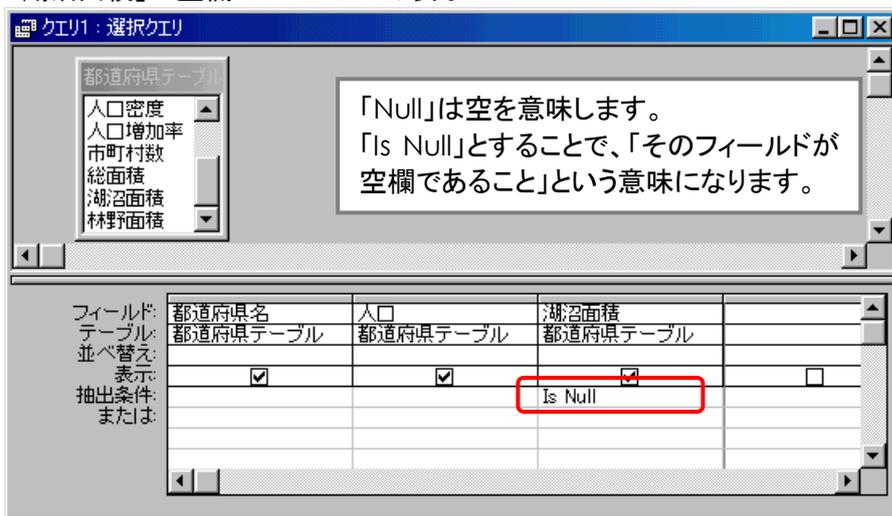
- 人口の多い方から10都道府県だけを表示



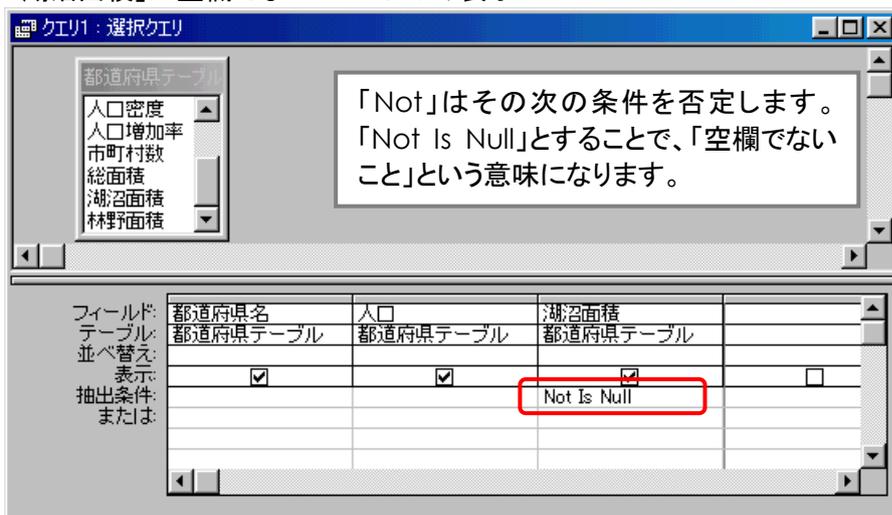
- 「県」のレコードのみを表示



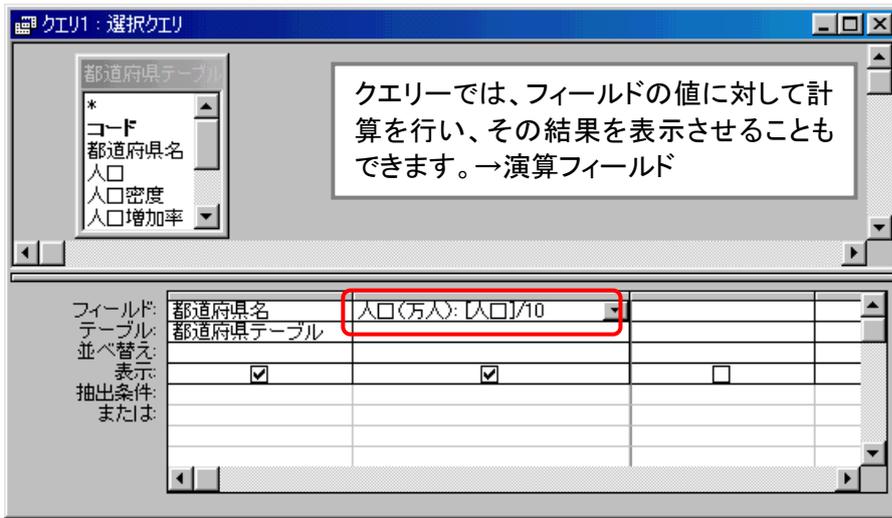
- 「湖沼面積」が空欄のレコードのみ表示



- 「湖沼面積」が空欄でないレコードのみ表示



- 人口を1万人単位で表示(千人→万人)



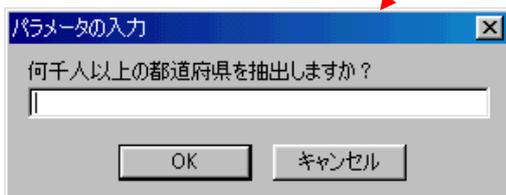
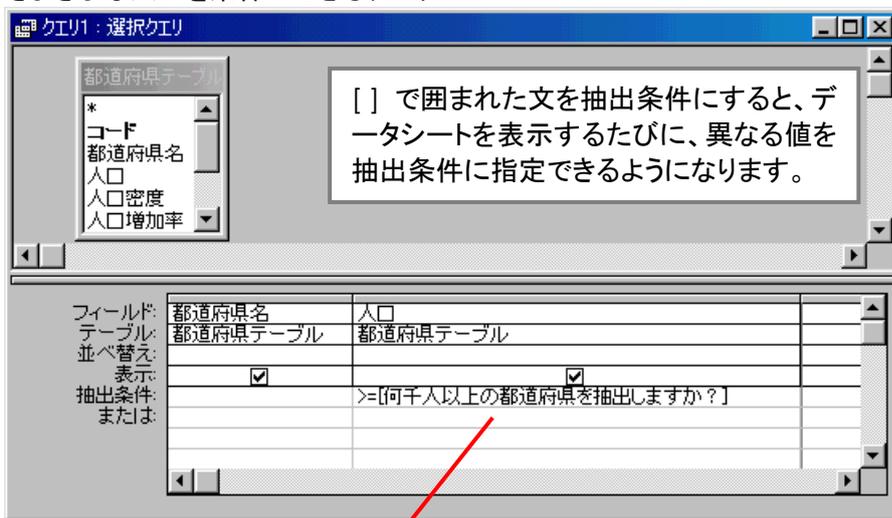
参考: 「IIF 関数」

演算フィールドは、データの計算結果を表示するだけではありません。次のように、「IIF 関数」を使うと、データの値に応じて、表示内容を“文字”で切り替えることもできます。

人口範囲: `IIF([人口]>=5000,"5000 以上","5000 未満")`

都道府県名	人口	人口範囲
北海道	5700	5000以上
青森県	1478	5000未満
岩手県	1416	5000未満
宮城県	2355	5000未満
秋田県	1201	5000未満
山形県	1253	5000未満
福島県	2137	5000未満
茨城県	2996	5000未満
栃木県	2008	5000未満
群馬県	2025	5000未満
埼玉県	6894	5000以上
千葉県	5887	5000以上
東京都	11830	5000以上
神奈川県	8392	5000以上
新潟県	2494	5000未満

- さまざまな人口を条件にできるクエリー



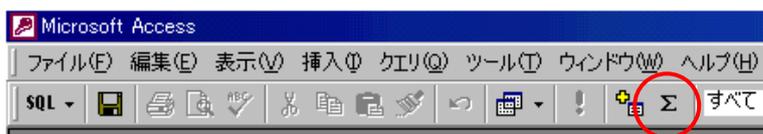
「データシートビュー」を実行すると、まず左図のような、条件を入力する画面が表示されます。

集計クエリー

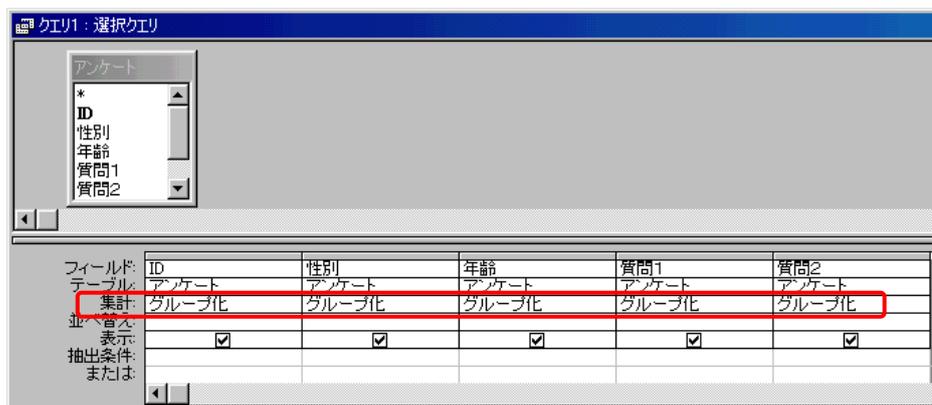
「集計クエリー」とは、あるフィールドの値でレコードをグループ化し、グループごとの合計値や平均値、最大値、最小値などを求めるための、選択クエリーの一種です。

集計クエリーは次のように作成します。

- ☞ 選択クエリーを表示している状態で、ツールバーの[集計]ボタンをクリックします。

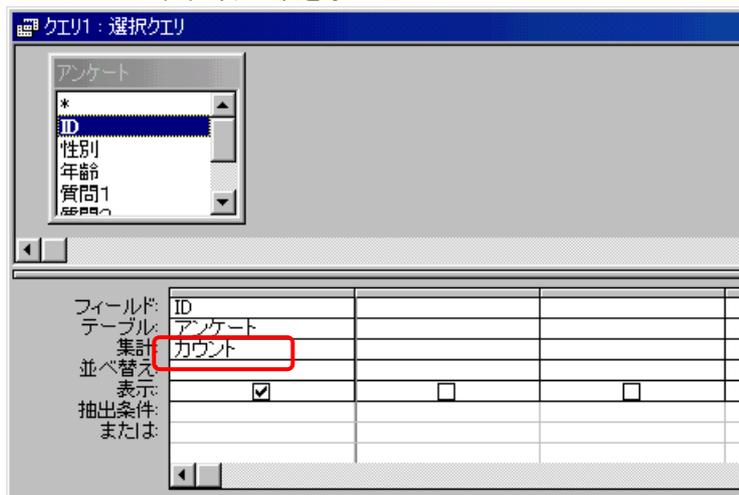


- ☞ [集計]という行が追加されます。ここで、どのフィールドを集計(グループ化)の基準とするか、どのフィールドの値をどのように集計(合計、平均など)するかを設定します。

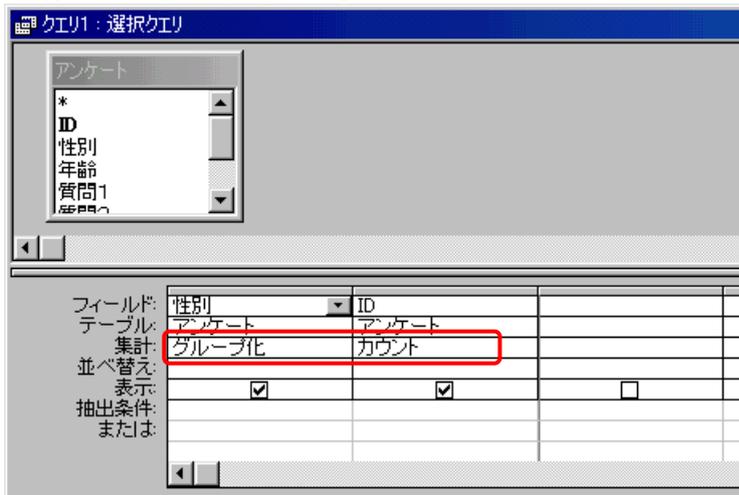


以下に、「アンケート」というテーブルを元にした、集計クエリーのいくつかの作成例を示します。

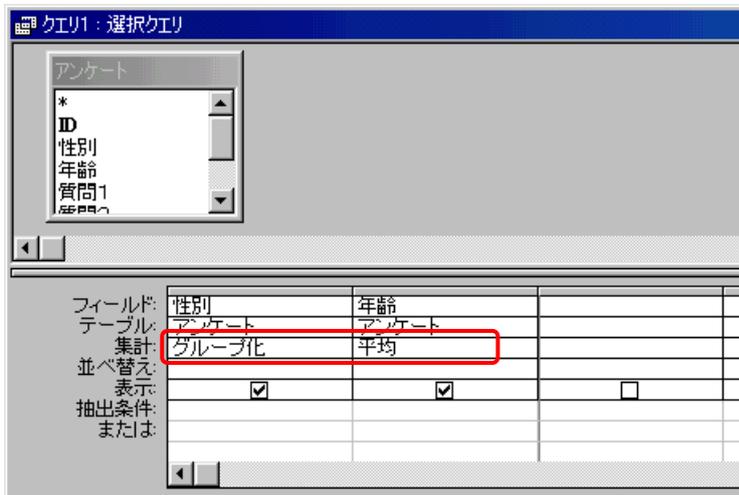
- アンケートの総回答人数を求める



- 性別ごとの回答人数を求める



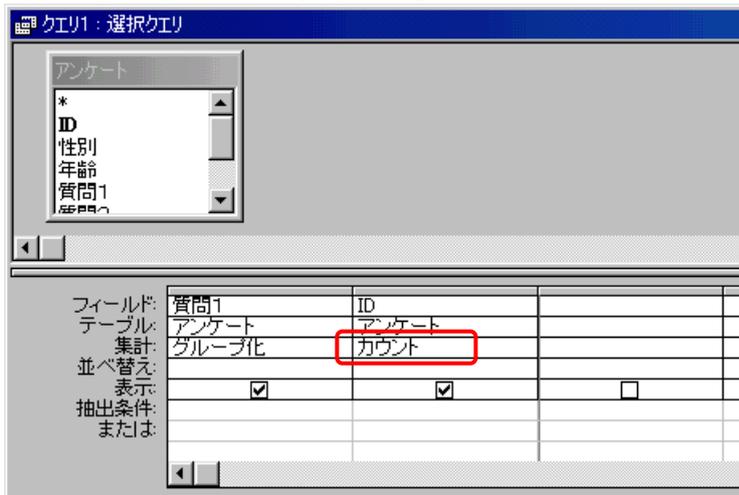
- 性別ごとの平均年齢を求める



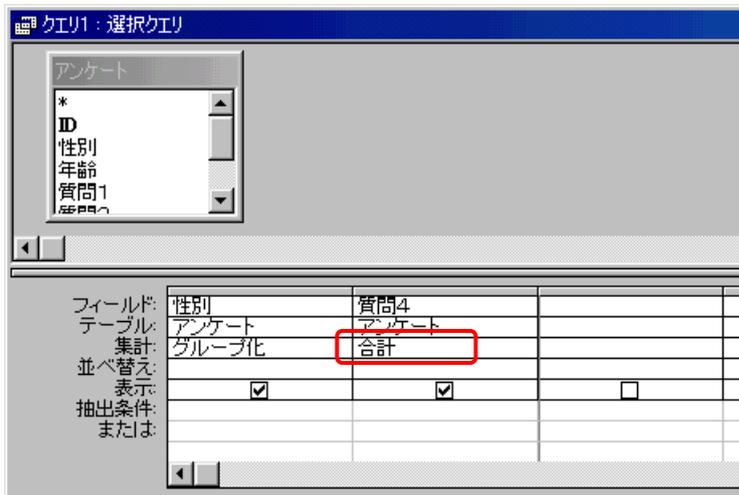
- 性別ごとの最大、最小年齢を求める



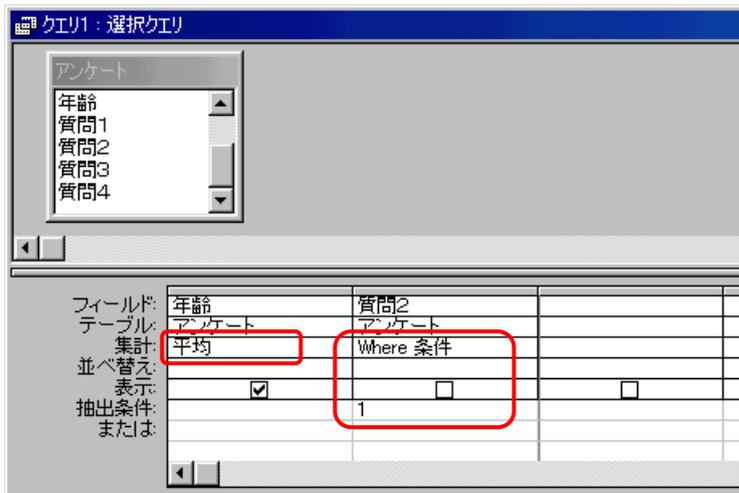
- 「質問1」の回答ごとの人数を求める



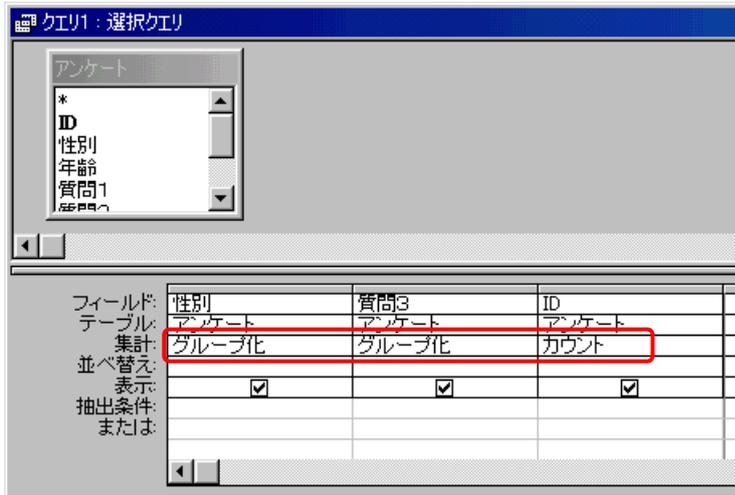
- 「質問4」の性別ごとの合計値を求める



- 「質問2」で「1」と答えた人の平均年齢を求める



- 性別ごと、「質問3」の回答ごとの人数を求める



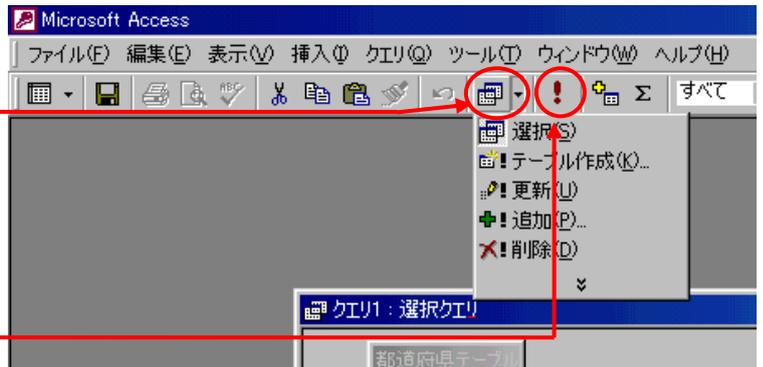
アクションクエリー

「アクションクエリー」とは、テーブルのデータをまとめて編集するためのクエリーです。その作用の仕方によって、「追加クエリー」、「更新クエリー」、「削除クエリー」、「テーブル作成クエリー」の4つの種類があります。

- ☞ アクションクエリーを作るには、クエリーのデザインを表示した状態で、ツールバーのこのボタン(右側の▼部分)をクリックして、アクションクエリーの種類を選択します。

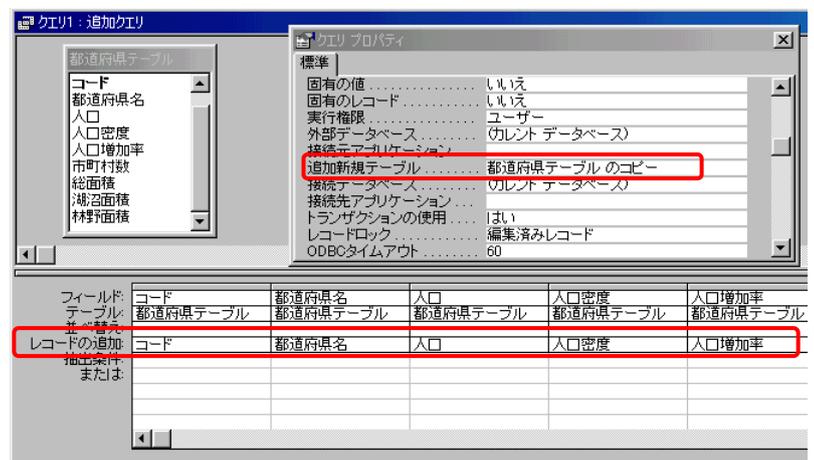
※[クエリ]メニューからも選択可能です。

- ☞ アクションクエリーを実行するには、このボタンをクリックします。



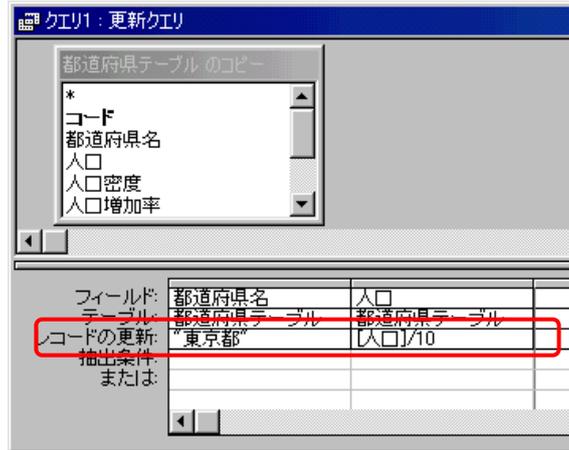
●追加クエリー

既存のテーブルの、レコードの一部または全部を、他のテーブルにまとめて追加します。



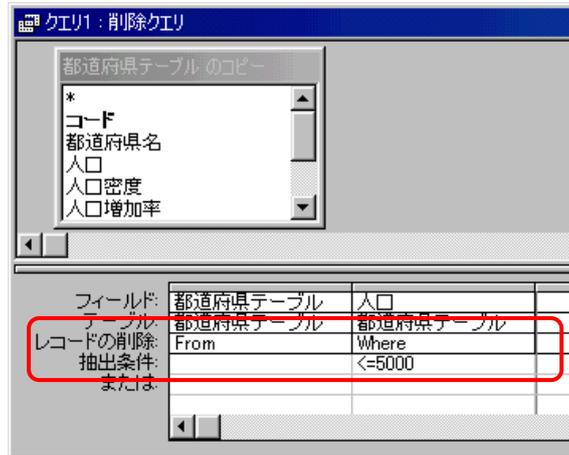
●更新クエリ

フィールドの値を、別の値に、あるいは演算した値にまとめて更新します。



●削除クエリ

既存のテーブルの、レコードの一部または全部をまとめて削除します。



●テーブル作成クエリ

あるテーブルから取り出したレコードで、新しいテーブルを作成します。

